

小学校(第5学年) 「学級活動」

○授業のねらい

- ・自分と周囲の人の大切なところを守るルールを理解する。
- ・心と体には距離感があるという認識を身に付け、周囲の気持ちを尊重した意思決定と行動選択ができる。
- ・SNSで見えない相手とつながることの危険について考え、安全に意思決定と行動選択ができる。
- ・お互いの気持ちを尊重し、よりよい人間関係を構築しようとする。

○指導形態(工夫したこと)

- ・実施時期を7月に設定し、夏季休業中の安全な過ごし方と関連付けて実施した。
- ・体育科保健領域「心の健康」と関連させ、教科等横断的な視点で指導を行った。

授業の内容



「相手との距離感について理解を深めている様子」

<実際の授業で工夫したこと>

導入

- ・小学校第4学年の学習を想起させ、「自分と周囲の人の体を大切にする」という考え方を基に、自他の大切なところを守るルールや、周囲の人を尊重するための心と体の距離感について、確認した。

展開

- ・友達からされて嫌だったことなど、自分の日常経験を想起させながら、自分と周囲の人との心と体の距離感等について理解を深め望ましい行動の在り方を考えさせた。

終末

- ・自分と相手を大切に、良好な人間関係を築くためにはどうしたらよいか、周囲の人との距離感を守るためにはどのような行動を取るべきかなど、本時の学習の振り返りを記載させることで、理解をより深められるようにした。

<児童生徒や指導した教員等の感想>

○児童

- ・自分を守るためには、プライベートゾーンや心と体の距離感を守らなければいけないということが分かった。そして、自分の心も他人の心も大切だと改めて思った。(児童)
- ・よい関係になるには、他人が嫌な思いをすることをしないことや、陰口を言わないことがよいと思った。いじめがきっかけで自殺してしまう人もいるから、いじめは本当に恐ろしいものだと思った。(児童)

○教師

- ・高学年になり、相手との距離感が違うことに気付く姿が印象的だった。また、そのことについて考えるきっかけとなり、その後の生活に生かそうとする姿が見られた。(教師)

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

- ・自分と他人の心と体を大切にできる態度や、性暴力の被害にあったときの対応の仕方を理解するなど、当事者意識を高めることができた。
- ・児童自身が自分事として互いの生命を大切にしようと考えるときも、相手の人格や人権を尊重する態度を育むことにつながった。
- ・実施時期に、当該学年でSNSを介したトラブルがあり、そのことを想起させたことで、当事者意識をもってSNSの危険性について理解を深めることにつながった。
- ・実施時期について、指導計画に位置付けることで、意図的・計画的な指導に努めることができた。

○今後に向けて

- ・「生命(いのち)の安全教育」の充実に向けて、学級活動や体育科など教科等横断的な視点で教育課程を位置付け、計画的に指導していく必要がある。
- ・実施学年については、「SOSの出し方に関する教育」や「情報モラル教育」との関連を考えながら検討し、教育課程を改善する必要がある。